

科目名	心理学		
担当教員	池上 将永		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代心理学の基礎知識を習得する。</li> <li>・人間の心や行動を研究するための方法論を学ぶ。</li> </ul>			
到達目標			
自分自身の心のあり方や行動に対する理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
実際に実験や心理テストを実施することもあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	「心理学」とは何か	池上
2	知覚Ⅰ（物理的世界と知覚）	池上
3	知覚Ⅱ（知覚の情報処理的研究）	池上
4	記憶と忘却	池上
5	学習心理学Ⅰ（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）	池上
6	学習心理学Ⅱ（認知学習・社会的学習理論）	池上
7	動機づけ	池上
8	感情の科学	池上
9	社会心理学Ⅰ（社会行動の発達）	池上
10	社会心理学Ⅱ（対人魅力と対人関係）	池上
11	パーソナリティの心理学	池上
12	臨床心理学Ⅰ（こころの病とは）	池上
13	臨床心理学Ⅱ（心理療法入門）	池上
14	脳とこころ	池上
15	筆記試験	池上

科目名	倫理学		
担当教員	白井 暢明		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
前半では人間の倫理，倫理学とはどのようなものであるかを理解させ，後半では生命倫理における主な問題や論点を取り上げ，現代における倫理的な問題についての理解を深める。			
到達目標			
現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容を理解し，諸問題を倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力を育む。医療現場の倫理的な問題に気づくことができる感性＝倫理的感性を高める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
議論や質問によって主張やそれを支える根拠を洗練していく過程にこそ、倫理学の底知れない魅力です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	<b>倫理学とはなにか？</b> ・「～ある」と「～あるべき」の違い ・善悪の基準とは？	白井
2	<b>倫理学の歴史①</b> ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（1）	白井
3	<b>倫理学の歴史②</b> ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（2）	白井
4	<b>倫理学の歴史③</b> カントの道徳哲学	白井
5	<b>倫理学の歴史④</b> ベンサム，ミルの功利主義的倫理学	白井
6	<b>倫理学における二つの立場</b> 功利主義と義務感	白井
7	<b>生命倫理とはなにか？</b> 生命倫理の三つの原理：自己決定権，パーソン論，生命の神秘性	白井
8	<b>人工妊娠中絶の問題</b> 人工妊娠中絶に対する賛否両論	白井
9	<b>生殖補助技術の倫理的問題</b> ・人工授精 ・着床前診断 ・出生前診断	白井
10	<b>脳死判定と臓器移植の問題</b> ・死の定義をめぐる論争 ・臓器移植のドナー家族と斡旋システムの問題	白井
11	<b>安楽死・尊厳死の問題</b> ・世界の趨勢・QOL（生の質）倫理とSOL（生の神秘性）倫理	白井
12	<b>遺伝子技術</b> ・遺伝子による診断 ・検査 ・改良（クローン） ・治療	白井
13	<b>ターミナルケア</b> ・人間にとって死とはなにか？ ・死の受容・死の看とりの重要性	白井
14	<b>生命倫理と宗教</b> ・生死に関する根源的な問いと宗教，スピリチュアル・ケアの重要性	白井
15	試験	白井

科目名	基礎数学		
担当教員	吉田 幸史		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	8
履修目的・授業概要 算数・数学を復習し、今後に計算しなければならない教科内容の理解を高める			
到達目標 高校数学Ⅰのレベルを理解し、誤りなく計算できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 出席状況と試験 (5:5)			
学生へのメッセージ 数学が苦手と思っている学生も多いと思いますが、つまづいている部分が理解されると案外簡単です。一緒に復習してみましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	四則計算	吉田
2	方程式、不等式	吉田
3	分数と割合	吉田
4	応用問題（速度、濃度など）	吉田
5	関数とグラフ	吉田
6	三角関数	吉田
7	ベクトルとスカラー	吉田
8	試験	吉田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	物理学		
担当教員	木曾 直吉		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
自然科学の基本の一つである物理量の概念や法則を学ぶ。人体の動作に関係する力学、人の感覚や医療機器に関連する熱・温度、電気・磁気・電磁波、波の分野について学ぶ。			
到達目標			
基本的な物理量と法則を理解し説明することができるようになり、医療現場でそれを生かせる能力を養う。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％）,課題（20％）			
学生へのメッセージ			
解かりづらいところは積極的に質問してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
物理学・臨床応用物理		医歯薬	

コマ	履修内容	教員
1	・物理で使う数学（文字式・数の表記法） ・物理学の歴史のあらまし	木曾
2	・運動の法則 ・身近な力（重力、弾性力、抗力、慣性力） ・直線運動のグラフとベクトルの基本	木曾
3	・仕事と仕事率 ・力学的エネルギー ・力学的エネルギーの保存則	木曾
4	・運動量 ・運動量の保存則	木曾
5	・力のモーメントと剛体のつり合い ・重心と物体の安定性 ・人体と力のモーメント例	木曾
6	・力と圧力 ・大気圧および水圧と浮力 ・パスカルの法則	木曾
7	・流体（気体・液体）の移動 ・重力と圧力差による移動 ・粘性	木曾
8	・熱と温度の本性 ・物質の状態変化 ・比熱と熱の移動	木曾
9	・ボイル・シャルルの法則 ・熱エネルギーの特徴 ・熱機関	木曾
10	・静電気とクーロンの法則 ・磁石と磁極間に働く力 電場と磁場	木曾
11	・電流・電圧・電気抵抗（オームの法則） ・電気エネルギー(電力) ・1秒間当たりの電気エネルギー（電気量）	木曾
12	・電流が作る磁界と電磁誘導 ・モーターおよび発電機の仕組み ・半導体の概要	木曾
13	・波の一般的性質 ・音の特徴 ・光の特徴	木曾
14	・音波を応用した機器 ・光を応用した機器	木曾
15	試験：教材プリントの演習問題レベルの問題、 担当教員が認めたものを持ち込み可にする場合がある。	木曾



科目名	英語		
担当教員	山口 大		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 英和辞典を活用するために必要な文法力を養成する。			
到達目標 英和辞典を活用し、必要な文法を養成することができる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 定期試験・小テスト・授業態度			
学生へのメッセージ 分からないことはまず聞いてください。また、質問しやすい雰囲気づくりを目指します。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
ジーニアス英和辞典		大修館書店	

コマ	履修内容	教員
1	英語と日本語の違い	山口
2	文の主要素と修飾語	山口
3	品詞の働き(名詞・代名詞・動詞・形容詞)	山口
4	品詞の働き(副詞・前置詞・接続詞・間投詞)	山口
5	第Ⅰ文型	山口
6	第Ⅱ・Ⅲ文型	山口
7	第Ⅳ文型	山口
8	第Ⅴ文型	山口
9	疑問文と否定文Ⅰ	山口
10	疑問文と否定文Ⅱ	山口
11	過去形	山口
12	未来形	山口
13	現在完了形	山口
14	まとめ	山口
15	定期試験	山口

科目名	生命科学		
担当教員	林 要喜知		
	実務経験	無	
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーション学学習の前提となるヒト生物学を外観する。さらに、現代医療に関わる再生医療やゲノム医療の原理を学ぶのみならず、マクロ環境とヒトの健康について理解を深める。			
到達目標			
1) 細胞の構造とそれらの働きを説明できる。2) 細胞が細胞外の刺激をどのように認識しているかを説明できる。3) 細胞分裂の役割や配偶子形成を説明できる。4) ヒトの主な遺伝現象を説明できる。5) 人体の主な組織・器官の構造と働きを説明できる。6) 主な最先端医療について説明できる。7) 地球環境が及ぼすヒトの健康について説明できる。			
授業の形式・方法			
通常は講義形式でおこなうが、時にはグループ討論をおこなう。			
成績評価の方法・基準			
3つの評価項目、即ち、定期試験：小テスト：出席率・授業態度の比率を3：1：1として、総合的に成績を判定する。			
学生へのメッセージ			
リハビリテーションにはヒトの体だけでなく心の働きも理解できるように広く学ぶことが望まれます。どんな些細な事でも興味があればどん欲に学ぶ姿勢が大切です。講義に関わることや関わらないことでも、遠慮なくいつでも質問に来て下さい。あるいは、メール等でお尋ね頂いても構いません。Email:hayashi@hokuho.ac.jp			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
参考書：エビジェネティクス	仲野徹	岩波新書	908
参考書：生命と環境	林要喜知他	三共出版	3080
参考書：高校生物の教科書等			

コマ	履修内容	教員
1	<u>ガイダンス</u> ：生命とは何かという観点から生命科学の基礎を外観する。	林
2	<u>細胞の働き</u> ：主な細胞小器官(核、ミトコンドリア、細胞膜)について学ぶ。	林
3	<u>細胞外刺激</u> ：細胞はどのように細胞外からの刺激を認識するかを学ぶ。	林
4	<u>細胞分裂</u> ：体細胞分裂と減数分裂の違いを学び、その意義を考える。	林
5	<u>ヒトの遺伝</u> ：遺伝病などを例にして、遺伝のメカニズムについて学ぶ。	林
6	<u>ヒトの身体1</u> ：消化器系について概要を学び、栄養摂取の意味を考察する。	林
7	<u>ヒトの身体2</u> ：血液循環と呼吸器系を学び、ガス交換や体液循環の意味を考察する。	林
8	<u>ヒトの身体3</u> ：感覚器や骨格筋が運動メカニズムの基本であることを学び、リハビリテーションについて考える。	林
9	<u>ヒトの身体4</u> ：ヒトの恒常性に関わる神経系の構造と機能の概要を学ぶ。	林
10	<u>ヒトの身体5</u> ：ヒトの恒常性に関わる免疫系の構造と機能の概要を学ぶ。	林
11	<u>ヒトの身体6</u> ：ヒトの恒常性に関わる内分泌系の構造と機能の概要を学び、ホメオスタシスに対する理解を深める。	林
12	<u>ヒトの身体7</u> ：ヒト腎臓の構造と機能を学び、浸透圧調節や排尿の意味を考察する。	林
13	<u>先端医療</u> ：再生医療や先端医療の基礎技術の概要を学び、それらの可能性を考察する。	林
14	<u>地球環境と感染症</u> ：地球レベルのマクロな環境がヒトの健康に及ぼす具体例を学び、環境保全のあり方やエビゲノムについて理解を深める。	林
15	筆記試験	林

科目名	文章構成法		
担当教員	西口 嘉和		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<p>学生生活および卒後の医療・福祉業務の遂行にあたり文章作成力は必須の能力である。本講義の目的は学業のみならず、日常生活の様々な場面における適切な文章表現を身につけることにある。講義では様々な演習を用いて、実践的な文章構成力の構築を目指す。</p>			
到達目標			
<p>1.言葉の知識を身につけ、必要な場面で適切に用いることができる。2.自らの考えを的確に表現することができる。3.様々な文章を的確に要約することができる。4.適切な言葉使いにより他者と円滑にコミュニケーションを図ることができる。</p>			
授業の形式・方法			
<p>プリント、視聴覚教材を活用しながら講義形式とグループワークを行う。授業終了後レポート提出あり。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>出席率、提出物、参加態度等で評価する。講義期間に読破した書籍の冊数による加算あり。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>リハビリテーション業務のみならず、日常生活上のあらゆる場面で適切な日本語を使えることが重要である。このことを常に意識してほしい。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション。講義の概要を理解する。	西口
2	読書リストについて。および、自己紹介を通して具体的に話すことの大切さを学ぶ。	西口
3	講義ノートの取り方①：模擬講義を通じてメモを取る練習	西口
4	講義ノートの取り方②：ビデオ教材を観ながらメモを取る練習	西口
5	レポートの書き方①：レポートを書く理由や種類、研究テーマについて学ぶ	西口
6	レポートの書き方②：作成要綱と体裁	西口
7	確実な連絡メモ：5W1Hの大切さ	西口
8	依頼メールの書き方：電子メールのマナーと書き方	西口
9	手紙（お礼状）の書き方：マナーや定型	西口
10	説明のコツ：わかりやすく伝える	西口
11	小論文の書き方：形式と内容について	西口
12	発想力を鍛える：マインドマップの活用	西口
13	書く力を鍛える①：漢字かな交じり文	西口
14	書く力を鍛える②：係り受け、慣用句、敬体文と常体文	西口
15	書く力を鍛える③：ビデオ教材レポート	西口

科目名	コミュニケーション論		
担当教員	川上 和敏		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
コミュニケーションの基本的な原理や意味を理解すること。施設実習を通して利用者との相互交流を実践した後で、再度学内授業にて、実習で経験したディスコミュニケーションなどについて振り返り、自身のコミュニケーション技術の問題と課題を把握すること。			
到達目標			
将来、作業療法士として必要なコミュニケーションスキルの意味を理解し、対象者と適切な関係を構築する基本的技術を身に付ける。			
授業の形式・方法			
講義、学内演習・実習、施設実習。			
成績評価の方法・基準			
レポート・他己紹介（50%）、発表会（50%）			
学生へのメッセージ			
自身の発言や態度について積極的に周囲からフィードバックを受けること。実習に際しては、施設指導者の指示に従うこと。利用者に対して、不利益となる行為・言動・個人情報に最大限配慮すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	<b>コミュニケーションとは</b> ・講義オリエンテーション ・コミュニケーションの範囲と概念	川上
2	<b>コミュニケーションの特徴や性質</b> ・バーバルとノンバーバル ・不可逆性、双方向性、関係性について	川上
3	<b>ディスコミュニケーションとは</b> ・発信者と受信者の演習	川上
4	<b>作業療法とコミュニケーション</b> ・目的と技術（sympathyとempathyなど） ・コミュニケーション障害	川上
5	<b>作業療法に必要なコミュニケーション技術</b> ・傾聴技法、共感技法、質問技法	川上
6	<b>作業療法に必要なコミュニケーション技術</b> ・実習オリエンテーション	川上
7	<b>学内実習</b> ・学生間インタビューを実施（ビデオ記録） ・テーマ「他者理解」	川上
8	<b>学内実習</b> ・学生間インタビューを実施（ビデオ記録） ・テーマ「他者理解」	川上
9	<b>演習（グループワーク）</b> ・ビデオ記録や観察者からの意見をまとめ、自己洞察と相互交流を分析しレポートを作成	川上
10	<b>演習（グループワーク）</b> ・ビデオ記録や観察者からの意見をまとめ、自己洞察と相互交流を分析しレポートを作成	川上
11	<b>施設実習（近隣の老人保健施設）</b> ・施設利用者とのコミュニケーション実践	川上
12	<b>施設実習（近隣の老人保健施設）</b> ・施設利用者とのコミュニケーション実践	川上
13	<b>演習（グループワーク）</b> ・施設実習を通じて学んだことや発見できた課題を整理しスライドやポスターを作成する	川上
14	<b>演習（グループワーク）</b> ・施設実習を通じて学んだことや発見できた課題を整理しスライドやポスターを作成する	川上
15	<b>発表会</b> ・他己紹介 ・施設実習	川上

科目名	社会福祉論		
担当教員	稲積 圭一		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	8
履修目的・授業概要			
<p>保険、福祉、医療の連携が叫ばれる中、医療との関わりを中心に社会福祉に関する法制度、諸問題などについての理解を含める。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会での福祉的な問題を理解し、それらに対する社会保障その他の制度を理解する。</li> <li>・社会福祉援助技術について理解する。</li> <li>・社会福祉の理念を理解する。</li> <li>・社会保障制度の方法と機能、問題点を理解する。</li> </ul>			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<p>社会福祉、社会保障制度はニュースや新聞等でも多く触れられている身近な話題であり、自分たちの生活にも直接関わってくる問題なのだとすることを理解してください。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
	<b>社会福祉の概念と歴史</b>	
1	古代から近代までの欧米における生活を支える仕組みの起源と特徴を学ぶ。	稲積
	<b>戦後日本の社会と福祉</b>	
2	社会福祉制度の歴史を学ぶ	稲積
	<b>少子高齢化問題</b>	
3	現在の日本が直面する少子高齢化問題について学ぶ。	稲積
	<b>社会福祉の理念と権利擁護</b>	
4		稲積
	<b>児童福祉政策</b>	児
5	児童福祉政策を学ぶ	稲積
	<b>障害者福祉施策</b>	
6	障害者福祉施策を学ぶ	稲積
	<b>社会福祉援助技術</b>	
7		稲積
	試験	
8		稲積
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	人間関係論		
担当教員	三浦 太一		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
医療・福祉業務の遂行にあたり、他者と良好な人間関係を形成することや良好なコミュニケーション活動を行う事は必要不可欠である。本講義では、講義と実習体験を通じて、対人認知のプロセスや集団内での人間関係に働く様々な要因について学ぶ。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者受容をはじめとして、より良い人間関係を構築するために役立つ知識や技能を理解する。</li> <li>・信頼される医療人となるためにロールプレイングをととしてコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。</li> </ul>			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
出席率（30％）,レポート（50％）,参加態度（20％）			
学生へのメッセージ			
人間関係は難しく、人の世は住みにくいとあるが、人間は人間世界から逃げ出すわけにはいかない。 夏目漱石の『草枕』の冒頭より			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人間関係づくりトレーニング	星野欣生	金子書房	1,800

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション, 自己概念の理解	三浦
2	自己概念の理解	三浦
3	価値観について	三浦
4	〃 GW(グループワーク)	三浦
5	思い込み,固定観念について	三浦
6	〃 GW	三浦
7	コミュニケーションの実際	三浦
8	〃 GW	三浦
9	人が人を理解するということ	三浦
10	〃 GW	三浦
11	トラブル対応について	三浦
12	〃 GW	三浦
13	映画「十二人の怒れる男」観賞	三浦
14	映画「十二人の怒れる男」観賞	三浦
15	グループディスカッション, レポート提出	三浦

科目名	情報科学		
担当教員	鈴木 渉		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	8
履修目的・授業概要 ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作を演習や発表を通して学ぶ			
到達目標 ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作を学ぶ			
授業の形式・方法 ワード、エクセル、パワーポイントの演習課題を通し、実践形式で学ぶ			
成績評価の方法・基準 発表試験(100%)に欠席・遅刻回数を減じたもで評定			
学生へのメッセージ 電子メールが使用できること、USBメモリーを持参すること、 学校用パソコンのログイン番号を持参すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
プリント配布			

コマ	履修内容	教員
1	Word演習と課題①	鈴木
2	Word演習と課題②	鈴木
3	Excel演習と課題①	鈴木
4	Excel演習と課題②	鈴木
5	Power Point演習と課題①	鈴木
6	Power Point演習と課題②	鈴木
7	Power Point 作成と演習	鈴木
8	試験	鈴木
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	健康体力科学		
担当教員	小谷 克彦		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後期	1	8
履修目的・授業概要			
人は心の中の思いを伝えられない、あるいは自身でも解りかねている時、身体を通して表現する。こうしたスポーツ現象に現れる心と身体の関係を理解し、不適応やメンタルヘルスなどの現代的な健康課題を改善する手がかりを得ることを狙いとする。			
到達目標			
スポーツにおける様々な事象を心理学の視点から理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
健康や体力の維持・増進を図るための知識やスキルを身につけ、自ら進んで生活習慣の改善に取り組んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
必要に応じ			

コマ	履修内容	教員
1	スポーツと物語	小谷
2	スポーツと不安	小谷
3	スポーツと怪我	小谷
4	スポーツとスランプ	小谷
5	スポーツと動機付け	小谷
6	スポーツと運・努力	小谷
7	スポーツと影	小谷
8	試験	小谷
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



科目名	体育実習Ⅰ		
担当教員	西館 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
<p>作業療法士にとって必要な体力を養う。          集団行動の中で必要なスキルアップを図る。          将来、高齢者や障害者に対する体操や運動の助言につなげられるよう、運動についての知見を深める。</p>			
到達目標			
<p>作業療法士にとって必要な体力を養うとともに、体操やストレッチ等の運動についての理解を深める。          集団行動やリーダーシップの経験をする</p>			
授業の形式・方法			
体育館や屋外での体育実習形式			
成績評価の方法・基準			
授業への参加およびノートの提出状況による判定			
学生へのメッセージ			
<p>集団での体育活動を通して、今後必要なチームワークやリーダーシップを養います。体調不良等については十分留意した状況下で行います。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	体力測定（シャトルランなど）	西館
2	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
3	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
4	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
5	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
6	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
7	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
8	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
9	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
10	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施。)	西館
11	宿泊研修(集団行動)	西館
12	宿泊研修(集団行動)	西館
13	宿泊研修(集団行動)	西館
14	宿泊研修(集団行動)	西館
15	宿泊研修(集団行動)	西館

コマ	履修内容	教員
16	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
17	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
18	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
19	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
20	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
21	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
22	運動(天候等の状況をみながら体育館および屋外での体育種目を実施. )	西館
23	体力測定(シャトルランなど)	西館
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	解剖学Ⅰ		
担当教員	扇谷 昌宏		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要 運動器（骨，関節，筋）、内臓（消化器、泌尿器、生殖器）について説明する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学用語を使って身体部位を表現できる。</li> <li>・身体は細胞，組織，期間，系統の階層構造からなることを理解する。</li> <li>・骨の構造，骨の連結の正常な構造と機能を理解する。</li> <li>・骨格筋の一般的な構造と機能を理解する。</li> </ul>			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験と小テストの結果を総合して評価する。			
学生へのメッセージ 復習を怠ることなく臨んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学・作業療法学 解剖学 第5版	野村巖	医学書院	6600

コマ	履修内容	教員
1	骨の総論	扇谷
2	上肢の骨の名称と形態	扇谷
3	下肢の骨の名称と形態	扇谷
4	胸・背部，頭の骨の名称と形態	扇谷
5	関節の総論	扇谷
6	上肢，下肢，頭，頸，背部の関節	扇谷
7	筋の総論	扇谷
8	上肢の筋	扇谷
9	下肢の筋	扇谷
10	頭頸部の筋	扇谷
11	体幹，骨盤部の筋	扇谷
12	消化器系①	扇谷
13	消化器系②	扇谷
14	消化器系③	扇谷
15	筆記試験	扇谷

科目名	解剖学 II		
担当教員	扇谷 昌宏		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 神経系、内蔵（呼吸器、内分泌器、循環器）及び組織学、発生学について学ぶ			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の基本的な構成について理解する。</li> <li>・感覚器系の構造と基本的機能を理解する。</li> <li>・内臓器系（循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系）の構造を理解する。</li> </ul>			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験と小テストの結果を総合して評価する。			
学生へのメッセージ 形の意義を考える，生理学的なことも理解すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学・作業療法学 解剖学 第5版	野村 巖	医学書院	6600

コマ	履修内容	教員
1	泌尿器	扇谷
2	生殖器	扇谷
3	呼吸器	扇谷
4	循環器	扇谷
5	内分泌系	扇谷
6	中枢神経①	扇谷
7	中枢神経②	扇谷
8	末梢神経①	扇谷
9	末梢神経②	扇谷
10	感覚器（目）	扇谷
11	感覚器（鼻、耳）	扇谷
12	感覚器（舌、皮膚）	扇谷
13	組織学	扇谷
14	発生学	扇谷
15	筆記試験	扇谷

科目名	解剖学実習Ⅰ		
担当教員	三浦 太一		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
運動器系の基礎となる骨・筋肉・関節・靭帯・神経の名称を学ぶ。また、運動・動作のなかで、筋・関節がどのように関与しているかを学ぶ			
到達目標			
習得した知識を実際の標本で再確認し、確実に身に着ける。骨学については、骨の名称、連結、靭帯について実際の骨標本を用いて説明できる。筋の起始停止、作用について説明できる。			
授業の形式・方法			
講義・実習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50％）、実技・口頭試験（50％）			
学生へのメッセージ			
解剖学の講義を理解して臨むこと。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
解剖学 第5版	野村 巖	医学書院	6,000

コマ	履修内容	教員
1	上肢の骨名称の理解	三浦
2	上肢の骨名称の理解	三浦
3	上肢の骨名称の理解	三浦
4	上肢の骨名称の理解	三浦
5	上肢の骨名称の理解	三浦
6	上肢の骨名称の理解	三浦
7	上肢の神経名称の理解および筋との関連	三浦
8	上肢の神経名称の理解および筋との関連	三浦
9	上肢の関節名称の理解および動作との関連	三浦
10	上肢の関節名称の理解および動作との関連	三浦
11	上肢の関節名称の理解および動作との関連	三浦
12	上肢の神経名称の理解および筋との関連	三浦
13	上肢の神経名称の理解および筋との関連	三浦
14	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
15	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦

コマ	履修内容	教員
16	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
17	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
18	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
19	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
20	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
21	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
22	上肢の骨・筋・神経名称の統合	三浦
23	試験	三浦
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	解剖学実習 II		
担当教員	西館 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
頭部・頸部・体幹・下肢帯の解剖学について、運動器を中心とした内容を履修する。			
到達目標			
解剖学の基礎的なルールや使用される言語を理解する。また骨や筋を具体的にイメージできるなどセラピストとしての基本的技術を身につける。			
授業の形式・方法			
講義形式の他、骨標本のスケッチや筋肉の位置・走行を標本を用いた実習形式を通して履修する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(前期・後期)・口頭試問等実技試験			
学生へのメッセージ			
解剖学については今後の授業や実習の基礎となる内容です。基本的な解剖学の規則や使用される言語の理解とともに、具体的に骨や筋肉がイメージできるように技術を身につけましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
基礎運動学 第6版	中村隆一	医歯薬出版	
標準PT・OT学 解剖学 第4版		医学書院	
新・徒手筋力検査法 第7版		協同医書出版	

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	西館
2	解剖学総論	西館
3	骨・関節構造の理解	西館
4	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
5	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
6	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
7	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
8	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
9	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
10	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
11	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
12	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
13	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
14	骨標本のスケッチ・細部の理解	西館
15	骨・関節構造 中間試験	西館

コマ	履修内容	教員
16	機能解剖学総論	西館
17	機能解剖学総論	西館
18	頭部顔面	西館
19	頸部	西館
20	体幹・胸背部	西館
21	腹部・骨盤周辺	西館
22	股関節・大腿部	西館
23	まとめ/試験	西館
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	



科目名	生理学Ⅰ		
担当教員	金子 智之		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 生体の機能(植物機能)とそのメカニズムについて学ぶ			
到達目標 各臓器における構造と機能を理解する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ 生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の知識であり、臨床医学を学ぶ上での土台です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	細胞と水	金子
2	血液①	金子
3	血液②	金子
4	呼吸	金子
5	心機能①	金子
6	心機能②	金子
7	消化と吸収①	金子
8	消化と吸収②	金子
9	内分泌①	金子
10	内分泌②	金子
11	内分泌③	金子
12	内分泌④	金子
13	腎①	金子
14	腎②	金子
15	筆記試験	金子

科目名	生理学Ⅱ		
担当教員	野口 智弘		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 生体の機能(動物機能)とそのメカニズムについて学ぶ			
到達目標 運動における神経系, 筋活動, 感覚器系の生理反応について理解できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ 運動に対する生理反応を理解することは医療従事者にとって重要であると思います。しっかりと学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	細胞膜と浸透圧	野口
2	活動電位とCa <sup>2+</sup> シグナリング	野口
3	神経情報処理	野口
4	脳の機能局在	野口
5	運動制御	野口
6	視覚	野口
7	聴覚・平衡覚	野口
8	味覚・嗅覚	野口
9	体性感覚	野口
10	感覚とリハビリテーション	野口
11	脊髄反射	野口
12	自律神経系	野口
13	内分泌系	野口
14	本能行動	野口
15	筆記試験	野口

科目名	生理学実習		
担当教員	金子 智之 野口 智弘 西館 潤		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	23
履修目的・授業概要 人体機能を学ぶ事により、生理学を深く理解する。			
到達目標 人体機能についての知識理解を深めるために、指示された方法に基づいて各実習を遂行し、結果のまとめおよび考察を行うことができる。			
授業の形式・方法 実習			
成績評価の方法・基準 1.出席率 2.参加態度			
学生へのメッセージ 積極的に実習に参加し、人体の面白さを学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	野口
2	神経伝導①	野口
3	神経伝導②	野口
4	神経伝導③	野口
5	神経伝導④	野口
6	脳波①	野口
7	脳波②	野口
8	脳波③	野口
9	脳波④	野口
10	心電図①	野口
11	心電図②	野口
12	心電図③	野口
13	心電図④	野口
14	オリエンテーション	金子
15	腎臓と体液 水・食塩水負荷試験①	金子

コマ	履修内容	教員
16	腎臓と体液 水・食塩水負荷試験②	金子
17	腎臓と体液 水・食塩水負荷試験③	金子
18	腎臓と体液 水・食塩水負荷試験④	金子
19	データのまとめ	金子
20	データのまとめ	金子
21	データのまとめ	金子
22	データのまとめ	金子
23	課題提出	西館
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	運動学Ⅰ		
担当教員	石井 綾子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要 運動学とは何かから考え、人体の基礎構造と役割について学ぶ			
到達目標 基本的な人体の基礎構造の理解や運動学的思考を学び深める			
授業の形式・方法 講義と小テスト（10回程度）			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100点）、小テスト、授業参加状況による減算			
学生へのメッセージ 人体の理解をするためには必須な科目です。少しでもかみ砕いて理解できるように伝えていきますので、わからないときには相談に来てください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
基礎運動学 第6版 補訂	中村隆一	医歯薬	6,800
運動学テキスト	石川朗・種村留美	中山書店	2,400
身体運動学	石橋則明	メディカルビュー	6,800

コマ	履修内容	教員
1	運動学とは	石井
2	生体力学の基礎	石井
3	身体のでこ	石井
4	運動器の構造と機能	石井
5	運動器の構造と機能	石井
6	運動器の構造と機能（筋収縮のメカニズム）	石井
7	肩の複合体の運動学	石井
8	肩の複合体の運動学	石井
9	肩の複合体の運動学	石井
10	前腕・肘関節の運動学	石井
11	前腕・肘関節の運動学	石井
12	前腕・肘関節の運動学	石井
13	<b>股関節の運動学</b> ・BOS/バランスについて	石井
14	<b>膝関節と姿勢の運動学</b> ・正常歩行の定義の理解 ・異常歩行と原因	石井
15	筆記試験	石井

科目名	運動学 II		
担当教員	石井 綾子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
中枢神経系を中心とした随意運動制御, 脳科学の観点から人体の基本システムを学ぶ。また, 運動学 I と関連させ学習を進める			
到達目標			
運動学 I, 解剖学, 生理学と関連を学び, 深める。また人体の基本システムについて理解を深める			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験 (100%), 出席状況により増減			
学生へのメッセージ			
人体の基本システムについて運動学 I の振り返りも含め細かくゆっくり進めていくので理解をしましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版		メディックメ ディア	3,800
基礎運動学第6版補訂	中村隆一		6,800

コマ	履修内容	教員
1	運動学 II の概要 ・神経系・末梢神経	石井
2	脳の解剖と機能	石井
3	脳の解剖と機能	石井
4	脳の解剖と機能	石井
5	脳の機能	石井
6	脳の機能	石井
7	脳の機能	石井
8	脳の機能	石井
9	脳の機能	石井
10	反射 (脊髄反射・伸張反射)	石井
11	反射 (脊髄反射・伸張反射)	石井
12	随意運動, フィードバック, フィードフォワード,	石井
13	感覚器/正常歩行	石井
14	歩行時の筋活動と復習と運動学習	石井
15	筆記試験	石井

科目名	人間発達学		
担当教員	福原 緑		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	8
履修目的・授業概要			
人間の行動の要素となる身体、姿勢、視覚聴覚機能、目と手の協調、運動機能の発達過程を学ぶ。			
到達目標			
人間の発達過程を理解し、知識を活用できるようになる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
解剖学的知識も同時に復習していきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	視覚の発達	福原
2	聴覚の発達	福原
3	食べる機能の発達	福原
4	手の運動の発達	福原
5	DVD「赤ちゃんのヒミツ～驚くべき生命力～」 観賞とレポート提出	福原
6	脳の発達、原始反射	福原
7	バランス機能の発達、姿勢反射	福原
8	試験	福原
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	リハビリテーション概論		
担当教員	富永 恵理 石井 綾子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの理念（自立支援，就労支援等を含む），地域包括ケアシステム，チーム医療，多職種連携を歴史的背景も含め学ぶ。ICIDHからICFへの変換を踏まえリハビリテーションの基本的視点と考え方について学ぶ。			
到達目標			
リハビリテーションの理念の理解とリハビリテーションの基本的視点と考え方について思慮を深める			
授業の形式・方法			
講義とビデオ学習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験と出席状況による増減			
学生へのメッセージ			
セラピストの土台となるリハビリテーションの理念とその背景をしっかりと理解しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
リハビリテーション総論	椿原彰夫	診断と治療社	3,600
リハビリテーション概論―改訂第3版―	上好昭孝 田島文博	永井書店	3,000

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーションの歴史と日本の医療情勢について	石井
2	リハビリテーションの理念 医学モデルから社会モデル， ICIDHからICFへ変換	石井
3	急性期・亜急性期リハ，回復期リハ，維持期・地域リハ	富永
4	多職種の役割・連携	富永
5	リハビリテーションの流れ カルテ記述の方法（SOAP）や地域連携バスやクリニカルパス	石井
6	自立支援，就労支援について	石井
7	チーム医療・チームアプローチ	富永
8	地域リハビリテーション	富永
9	地域包括ケアシステム	富永
10	地域リハビリテーション活動支援事業・災害支援事業について	富永
11	介護予防支援の実際	富永
12	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
13	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
14	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
15	筆記試験	石井 富永



科目名	リハビリテーション概論実習		
担当教員	川上 和敏		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
障害の理解や作業療法士が働く臨床現場、他職種連携について学ぶ。施設実習の経験と実習後のグループディスカッションを経て作業療法の職業観についての理解を深め、今後の学修のモチベーション向上につなげる。			
到達目標			
リハ医療、障害について理解していること。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の4領域の作業療法の周辺環境や実施内容の共通点や相違点を理解している。臨床における作業療法の魅力や対象者支援について具体的に説明できること。			
授業の形式・方法			
施設見学実習、講義、演習			
成績評価の方法・基準			
出席、学習態度、発表会の内容・貢献度			
学生へのメッセージ			
施設実習では指導者の指示に従い、積極的に対象者と関わること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
セラピストのための概論リハビリテーション		文光堂	
リハビリテーション概論		永井書店	

コマ	履修内容	教員
1	授業オリエンテーション	川上
2	リハビリテーション医療について ・定義、社会的背景 ・生活支援（自立と自律）	川上
3	作業療法について ・作業とは ・日本作業療法士協会の定義と解釈	川上
4	障害の理解 ・基本的理解 ・ICFとICIDH	川上
5	障害の理解 ・医学的側面（身体障害、精神障害） ・社会的側面（生活障害、活動制限、参加制）	川上
6	障害の理解 ・障害者心理 ・家族の心理	川上
7	演習 障害者体験 ・不自由の体験 ・介護される側・する側の心理	川上
8	演習 障害者体験 ・W/C操作体験	川上
9	演習 生活障害支援 ・食事動作の介助 ・整容動作の介助	川上
10	演習 生活障害支援 ・更衣動作の介助 ・トイレ動作の介助	川上
11	作業療法の対象領域について ・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害	川上
12	作業療法の対象領域について ・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害	川上
13	施設見学 身体障害領域①	川上
14	施設見学 身体障害領域②	川上
15	施設見学 精神障害領域①	川上

コマ	履修内容	教員
16	施設見学 精神障害領域②	川上
17	施設見学 発達障害領域①	川上
18	施設見学 発達障害領域②	川上
19	施設見学 老年期障害領域①	川上
20	施設見学 老年期障害領域②	川上
21	グループディスカッション	川上
22	グループディスカッション	川上
23	発表会	川上
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	作業療法概論Ⅰ		
担当教員	鈴木 渉		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<p>作業療法の基礎となる哲学・概念・歴史を知り、かつ専門職としての資質と適性について学ぶ。さらに作業療法の実践過程における評価方法や利点・問題点の抽出方法を通し、対象者"その人"を理解し、有効なアプローチを構築するための技術と知識について講義する。</p>			
到達目標			
<p>問題解決型学習法（PBL）により自ら調べ、まとめ、発表するプロセスを通して学習方法を学び、作業療法の全体像を把握する</p>			
授業の形式・方法			
講義，演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験20%，発表30%，レポート50%，出席率			
学生へのメッセージ			
<p>本講義は、これまでの知識伝授型教育と異なり、学ぶプロセスを学ぶ学習法であり、この授業を通して、学生が能動的に勉強する方法を取得することを目的としている。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版	長崎重信	メディカルビュー	¥4,200

コマ	履修内容	教員
1	作業とは何か？	鈴木
2	作業とは何か？	鈴木
3	作業とは何か？	鈴木
4	作業とは何か？	鈴木
5	作業とは何か？	鈴木
6	作業とは何か？	鈴木
7	作業とは何か？	鈴木
8	作業とは何か？	鈴木
9	作業とは何か？	鈴木
10	作業とは何か？	鈴木
11	グループ発表	鈴木
12	発達障害領域における作業療法を理解する	鈴木
13	発達障害領域における作業療法を理解する	鈴木
14	発達障害領域における作業療法を理解する	鈴木
15	総合試験	鈴木

科目名	作業療法概論Ⅱ		
担当教員	西口 嘉和		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
<p>「作業療法概論Ⅰ」で学んだ知識をもとに、身体・精神・地域（老健・訪問）の各分野における作業療法の業務を理解し、“生活障害”に対する基本的アプローチを考察する。臨床見学実習前に習得しておくべき基本的かつ重要な知識を講義する。</p>			
到達目標			
<p>作業療法各領域における、作業療法の概略および過程を理解する。</p>			
授業の形式・方法			
<p>教科書および担当教員作成のプリントを用いながら講義形式で行う。理解確認のためのレポート課題あり。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>小テスト20%、本試80%。出席状況と課題で増減。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>講義内容を記憶するだけでなく、理解することが重要。そのための積極的な学習態度を求む。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
作業療法学概論第3版	(監)長崎重信	MEDICAL VIEW	4400

コマ	履修内容	教員
1	<b>オリエンテーション</b> 。前期「作業療法概論Ⅰ」で学んだことを再確認する。	西口
2	<b>身体機能分野作業療法①</b> ：「身体障害」の種類	西口
3	<b>身体機能分野作業療法②</b> ：作業療法の介入範囲	西口
4	<b>身体機能分野作業療法③</b> ：評価と治療のポイント	西口
5	<b>身体機能分野作業療法④</b> ：治療理論	西口
6	<b>精神機能分野作業療法①</b> ：「精神障害」の定義	西口
7	<b>精神機能分野作業療法②</b> ：精神科医療の現状	西口
8	<b>精神機能分野作業療法③</b> ：「精神保健」とは	西口
9	<b>精神機能分野作業療法④</b> ：精神科作業療法の対象	西口
10	<b>精神機能分野作業療法⑤</b> ：精神科作業療法の実施過程と方法	西口
11	<b>地域作業療法①</b> ：地域作業療法の意味	西口
12	<b>地域作業療法②</b> ：「地域」における作業療法の業務	西口
13	<b>地域作業療法③</b> ：介護老人保健施設における作業療法	西口
14	<b>地域作業療法④</b> ：認知症の作業療法	西口
15	<b>本試験</b>	西口

科目名	基礎作業学実習Ⅰ		
担当教員	西口 嘉和 鈴木 渉 石井 綾子 西館 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
作業療法では、治療手段の一つとして様々な“作業活動”を用いる。本講義では「作業活動の治療的応用」について学んだ後、様々な実習を通じ、工程・手順の分析、運動構成要素、感覚-知覚-認知統合要素、心理社会的要素などを分析・考察する。			
到達目標			
作業活動に用いる基本的な知識・技術を習得する。また、作品を作る楽しさ、使う楽しさを知る。			
授業の形式・方法			
講義および実習。レポート提出とフィードバック。			
成績評価の方法・基準			
レポート。出席状況による増減。			
学生へのメッセージ			
作品を作る楽しさ、使う楽しさを共に感じよう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	畑作業	西館
2	畑作業	西館
3	畑作業	西館
4	畑作業	西館
5	畑作業	西館
6	畑作業	西館
7	調理実習	西館
8	<b>作業の治療的応用①</b> ：作業療法における特徴	西口
9	<b>作業の治療的応用②</b> ：作業療法における目的	西口
10	<b>作業の治療的応用③</b> ：作業選択に必要な要因	西口
11	<b>作業の治療的応用④</b> ：各領域における活用法	西口
12	<b>作業の治療的応用⑤</b> ：芸術療法	西口
13	ネット手芸	石井
14	ネット手芸	石井
15	ネット手芸	石井

コマ	履修内容	教員
16	革細工	石井
17	革細工	石井
18	ロールピクチャー	鈴木
19	ロールピクチャー	鈴木
20	ロールピクチャー	鈴木
21	ロールピクチャー	鈴木
22	ロールピクチャー	鈴木
23	ロールピクチャー	鈴木
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	基礎作業療法学Ⅱ		
担当教員	西口 嘉和 石井 綾子 川上 和敏 鈴木 渉 三浦 太一 西舘 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要 本講義では、作業活動の実践を通して臨床応用に必要な知識・技術を学ぶ。			
到達目標 1. 各作業活動が人にあたえる影響について理解し、説明することができる。 2. 各作業活動の手順、道具、注意点、特色について説明することができる。			
授業の形式・方法 講義・演習			
成績評価の方法・基準 授業態度、ゼミ発表内容			
学生へのメッセージ 積極的に参加できる状況を共に作っていきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
2	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
3	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
4	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
5	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
6	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
7	学生間交流を通じたコミュニケーション課題	各担当
8	発表準備	各担当
9	発表準備	各担当
10	発表会	各担当
11	発表会	各担当
12	パンフレット作製	西舘
13	パンフレット作製	西舘
14	パンフレット作製	西舘
15	パンフレット作製	西舘

コマ	履修内容	教員
16	パンフレット作製	西館
17	パンフレット作製	西館
18	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
19	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
20	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
21	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
22	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
23	モニュメント作製(卒業式、入学式)	三浦
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	



科目名	評価実習Ⅰ		
担当教員	鈴木 渉		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後期	1	23
履修目的・授業概要			
<p>学習者はROMの演習を行を通して技術を習得する。国家試験の基礎知識を学ぶ、各関節の解剖・生理学を踏まえ、関節運動の知識と実践を統合する。</p>			
到達目標			
<p>学習者はROMの技術を習得し、臨床実習に必要な技術を取得する。</p>			
授業の形式・方法			
講義、演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験30%，実技試験70%，出席率			
学生へのメッセージ			
ジャージ等動きやすい着衣を着用してください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
基礎運動学 第6版	中村隆一	医歯薬出版	¥6,800
ROM測定	福田修	三輪書店	¥3,800

コマ	履修内容	教員
1	関節構造の理解と制限のメカニズム	鈴木
2	関節構造の理解と制限のメカニズム	鈴木
3	ROM-T肩甲帯測定法	鈴木
4	ROM-T肩甲帯測定法	鈴木
5	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
6	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
7	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
8	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
9	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
10	ROM-T（上肢）測定法	鈴木
11	ROM-T（手指）測定法	鈴木
12	ROM-T（手指）測定法	鈴木
13	ROM-T（下肢）測定法	鈴木
14	ROM-T（下肢）測定法	鈴木
15	ROM-T（下肢）測定法	鈴木

コマ	履修内容	教員
16	ROM-T（下肢）測定法	鈴木
17	ROM-T（頸部・体幹）測定法	鈴木
18	ROM-T（頸部・体幹）測定法	鈴木
19	ROM-T（頸部・体幹）測定法	鈴木
20	形態計測（四肢長－上下肢）	鈴木
21	形態計測（周径）	鈴木
22	まとめ	鈴木
23	試験	鈴木
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	